

## 地域文化功労者表彰の被表彰者功績概要について

### ○ ながさきけん おペラ きょうかい 長崎県オペラ協会

昭和 55 年 4 月設立 会長 こうの しげる  
河野 茂

同団体は、昭和 55 年発足以降、県内唯一のオペラ公演団体として、長きに渡りオペラの研究と県内を中心とした演奏活動を意欲的かつ継続的に行ってきた。

発足以来続いている定期演奏会（令和 6 年度で第 45 回目）では、長崎を舞台としたオペラ「蝶々夫人」をはじめとする海外オペラ・日本オペラの作品を多く上演し、長崎初演の作品にも積極的に取り組み、県民へ紹介している。また、学校へのオペラ出張公演や病院ロビーコンサート、地域のイベントでの演奏に加え、長崎旅博覧会、居留地まつり、たのシックフェスティバルなど、公的イベントへの協力も行っており、オペラを通して長崎の芸術文化の振興に寄与している。

創立 35 周年にあたる平成 25 年には、長崎の歴史（キリスト教弾圧、原爆）をモチーフにした長崎新作オペラ「いのち」が高い評価を受け、第 11 回三菱 UFJ 信託音楽賞奨励賞を受賞、平成 27 年度には新国立劇場地域招聘公演にも選ばれるなど、全国的にも活躍しており、これらの功績は極めて顕著である。



○ わかみやいなりにんじやたけんげいほぞんかい  
若宮稲荷神社竹ン芸保存会

昭和 53 年 10 月設立 代表者 ごとう きよてる  
後藤 清輝

若宮稲荷神社竹ン芸はおよそ 203 年前の文政 3 年に「長崎くんち」の奉納踊として奉納されたと伝えられており、明治 30 年代に現在の若宮稲荷神社（長崎市伊良林）の例祭踊となった。

「竹ン芸」とは、「祭り囃子に浮かれた白狐たちが竹藪の中で遊び戯れる様を形どった、五穀豊穰を祈る奉納踊りである。」などの謂れがあり、20メートル余の二本の青竹の上で、男狐と女狐の面をつけた二人の若者が曲芸をする。昭和 49 年に市の無形民俗文化財に指定されており、平成 15 年には国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されている。演ずる際は、県指定無形民俗文化財「長崎くんち奉納音曲」の一つである竹ン芸囃子に乗って演ずる。毎年恒例の若宮稲荷神社の大祭では、市内はもとより県外からも多くの観客が訪れ、緊張感あふれる大胆かつ繊細な技の数々に魅了されている。

同保存会は、神事的約事と高度な技術の継承のほか、小学生による「子ども狐」の演技や、奉納前に地域を練り歩く「子ども神輿」の指導・補助など、子どもたちも含めた地域一体となった活動を行っており、伝統文化の保存に加え、後継者育成、地域の活性化にも貢献しており、これらの功績は極めて顕著である。

